東北大学整形外科専門研修プログラム

Department of Orthopaedic Surgery, Tohoku University Hospital

2027年版

豊富な症例数と
充実のプログラム
専門研修は東北大学

内　容

1. 専門研修プログラムについて
2. 東北大専門研修の特徴
3. 専門研修の目標
4. 研修方法
5. 専門研修の評価について
6. 研修プログラムの施設群について
7. 研修プログラム参加者受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. サブスペシャリティ領域との連続性
10. 研修の休止・中断、プログラム外研修、変更の条件
11. 専門研修プログラムを支える体制
12. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
13. 専門研修プログラムの評価と改善
14. 研修プログラム参加者の採用と修了
15. 関連病院紹介



東北大学病院　整形外科

〒980-8574　仙台市青葉区星稜町1-1

TEL 022-717-7245 / FAX 022-717-7248

http://http://www.ortho.med.tohoku.ac.jp//

1. 東北大学整形外科専門研修プログラムについて

東北大学整形外科は、東北地方を代表する多数の地域中核病院を連携施設としています。したがって、東北大学整形外科専門研修プログラムでは、臨床の第一線で豊富な診療経験（外来、入院診療、多数の執刀を含めた手術経験）が得られるという大きな利点があります。基幹病院である東北大学病院においては専門性の高い医療を、また連携施設においては早期から外傷など一般的な整形外科疾患について、多数の臨床経験を積むことができます。整形外科専門医に求められる下記の能力を効率良く獲得することが可能です。さらに、本プログラムを通して、臨床・研究両面において、専門家としての素地を育むことができます。

整形外科専門医の理念

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められる。このため整形外科専門医制度は、質の高い医療を提供するために医師として必要な臨床能力および整形外科疾患全般に関して基本的・応用的・実践能力を備えた医師が育成され、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とする。



整形外科専門医の使命

・あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有すること。

・生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献すること。

・運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供すること。

2．東北大学整形外科における専門医研修の特徴

豊富な執刀数と専門知識獲得のサポート

東北大学整形外科の研修プログラムでは、基幹病院と地域医療を担う病院の適切な組み合わせにより外傷、関節外科、脊椎外科、腫瘍、小児などの専門領域（サブスペシャリティ）をまんべんなく経験し、指導を受けることが可能です。外傷の治療は、地域の中核病院で多数の症例の手術執刀を含めた治療経験が可能です。当科の相澤俊峰教授は日本を代表する脊椎外科のスペシャリストであり、脊椎外科はもちろん関節外科や、腫瘍や小児整形外科も東北大学病院を中心にした基幹病院で経験し、指導を受けることが可能です。この豊富な経験により整形外科専門医資格の取得、並びに専門医取得後の専門領域の専攻においてもアドバンテージが得られます。

東北大学の研修プログラムでは、はじめの3年間の研修を連携病院で行います。最後の1年間は東北大学病院と仙台市内の連携病院で研修を行い、必要な研修内容を総括します。専門医試験にも有用な各領域毎のセミナーも開催しています。さらに、東北大学は文科省指定の研究大学であり、研究機関としての役割も果たしております。研修後に大学院に進学して基礎研究あるいは臨床研究のテーマに取り組んで、博士号の取得が可能です。



研修終了後のステップアップ

研修プログラムの終了後の進路としては、大学院に進学するコースとより多くの臨床経験を積むために関連病院に進むコースに分かれます。大学院に進学する場合には、専門医研修の終了後に大学院に入学することになります。大学院の在籍中に希望する専門領域の診療グループに所属して、診療のトレーニングを受けることも可能ですし、大学院修了後に専門領域の診療グループでトレーニングを開始することも可能です。関連病院に直接進む場合には、東北大学病院で興味のある診療グループにスタッフとして所属する、あるいは仙台市内や地域のスペシャリストを配置する基幹病院に赴任して自身が目指すサブスペシャリティの指導を受け研修していくことが可能です。また、本プログラムの途中からの大学院進学も可能です。

①　東北大学病院整形外科

東北大学整形外科は1942年に開講した歴史ある教室です。2021年からは第7代の相澤俊峰教授が教室を主宰しています。東北大学病院の診療グループは、相澤教授の専門である脊椎外科をはじめ、膝関節、股関節、肩関節、関節リウマチ・骨代謝、骨軟部腫瘍、スポーツに大別されます。大学院大学として臨床および基礎研究にも力を入れております。東北大学病院での研修ではそれぞれの診療グループに所属して研修することにより、専門性の高い医療の経験、トレーニングを受けることが可能となると同時に、臨床研究のリサーチクエスチョンに適切に取り組むための臨床研究の進め方のメソッドも習得することができます。

②　専門研修連携施設

東北大学整形外科専門研修プログラムでは、連携病院として年間2000件以上の手術が1施設、1000件以上の手術を行う病院が3施設、500件以上の手術を行う施設が13施設あり、さらに**専攻医を含めた医師一人あたりの年間手術執刀件数が100～200件であり、短期間で非常に豊富な執刀経験を得ることが可能**です。提携病院は東北各地にあり、岩手県は岩手県立中央病院、岩手県立磐井病院、山形県は山形市立病院済生館、東北中央病院、宮城県は気仙沼市立病院、大崎市民病院、石巻赤十字病院、栗原中央病院、登米市民病院、仙台整形外科病院、JCHO仙台病院、東北労災病院、仙台医療センター、東北公済病院、仙台赤十字病院、仙台市立病院、仙台西多賀病院、みやぎ県南中核病院、福島県は竹田綜合病院、いわき市医療センターなどがあります。連携病院の多くは地域医療を担う中核病院であり、多様な専門性を有する指導医を配置し、外傷から変性疾患まで幅広く対応しています。一般の整形外科疾患の他、施設ごとに得意とする整形外科の分野や領域があり、より疾患・部位に特化した専門性の高い研修を行うことが可能です。そのほかにも連携病院には小児整形に特化した宮城県立こども病院やがん治療を行う宮城県立がんセンターがあり、充実した小児整形や整形外科がん治療の研修も受けることができます。また**宮城県や岩手県の奨学金返済に対応した研修病院のコースや、仙台市内型の研修病院コースも対応可能**ですのでご相談下さい。

施設名称	研修担当分野
岩手県立中央病院	2, 3, 4, 6, 7, 9
岩手県立磐井病院	1, 3, 10
公立学校共済組合東北中央病院	1, 2, 3, 4, 8, 9, 10
山形市立病院済生館	2, 6, 10
気仙沼市立病院	3, 9, 10
登米市立登米市民病院	4, 9, 10
栗原市立栗原中央病院	1, 3, 9
大崎市民病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
石巻赤十字病院	1, 3, 4, 7, 9, 10
特定医療法人白嶺会　仙台整形外科病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
東北大学病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
地域医療機能推進機構　仙台病院	1, 2, 3, 4, 6, 9
独立行政法人　労働者健康福祉機構　東北労災病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
独立行政法人国立病院機構　仙台医療センター	1, 3, 4, 7, 9, 10
東北公済病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
仙台赤十字病院	1, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10
宮城県立こども病院	3, 4, 7, 9, 10
宮城県立がんセンター	1, 8, 9
仙台市立病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
独立行政法人国立病院機構　仙台西多賀病院	1, 2, 3, 4, 5, 7, 9, 10
みやぎ県南中核病院	1, 2, 3, 6, 9, 10
公立黒川病院	3, 4, 10
仙塩利府病院	1, 2, 3, 4, 5, 9, 10
竹田綜合病院	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10
いわき市立医療センター	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 9, 10

③　研修コースの具体例

東北大学研修プログラムでは様々なニーズに対応した研修コースを用意しております。連携施設は特徴や地域性があり、それらを組み合わせることでオールラウンドな研修コースはもちろん、外傷重点コース、関節疾患重点コース、脊椎疾患重点コースなど特徴をつけたコースも対応可能です。いずれのコースにおいても専門医取得に必要な単位を全て取得することができます。また、転勤に伴う引っ越しには転出先の病院から引っ越しの補助金が支給されます（東北大学病院除く）。4年目は東北大学病院と仙台市内の病院で研修しながら経験した症例のまとめを行い、専門医取得への準備をすることができます。1年あたりの定員は最大21名であり、2026年度は11名、2025年度は10名、2023年は13名の先生が東北大学整形外科専門研修プログラムに応募され、2025年4月現在、合計で42名が研修中です。下記に研修コースの一例を記載します。このほかにもご希望により、連携病院内で様々なコースをご準備できます。詳細はお問合せください。

専攻医プログラム コース例

コース例	1年目	2年目	3年目	4年目
外傷重点コース	仙台市立	竹田	いわき市医療	大学
関節重点コース	石巻赤十字	岩手県中	仙台赤十字	大学
脊椎重点コース	仙台医療センター	東北労災	西多賀	大学
宮城県奨学金対応	大崎市民	気仙沼	県南中核	大学

※宮城県と岩手県の修学資金貸与者に対応可能です。宮城県修学資金貸与者は義務履行施設（大崎市民病院、石巻赤十字病院、みやぎ県南中核病院、栗原市立中央病院、気仙沼市立病院、登米市民病院のいずれか）を合計で最大3年ローテートすることができます。

④　充実した各専門領域セミナー・勉強会

本学および関連施設が毎年行っている各種の整形外科セミナーは多岐にわたっています。東北大学脊椎外科セミナー、東北大学小児整形外科セミナー、東北大学リウマチ外科セミナー、東北大学手の外科セミナー、仙腸関節セミナー、宮城足部疾患・外傷セミナーなどの各種セミナーがあります。また、東北大学脊椎外科懇話会、仙台膝の会、仙台肩関節研究会、宮城骨折治療研究会、宮城股関節研究会など各サブスペシャリティの専門分野ごとに定期的に勉強会が行われており、若手医師の参加や発表を通じて、専門医師との密度の高い情報共有や人的交流を行っています。

3．東北大学整形外科専門研修の目標

①　専門研修後の成果

整形外科研修プログラムを修了した整形外科専門医には、あらゆる整形外科疾患に対して適切な初期対応（診断と治療、必要であれば専門医への紹介）を行う能力が必要とされます。また、専門領域が細分化した今日の状況を踏まえて、自分の専門分野（サブスペシャリティ）を選択し、より詳細な知識を身に着けることも必要とされます。東北大学整形外科研修プログラムでは、幅広い専門分野を持った連携病院をローテーションし、第一線で活躍する先輩から学ぶことで、幅広い疾患の診断と治療を身に着けるとともに、将来のサブスペシャリティを身に着ける第一歩とします。

②　到達目標（修得すべき知識・技能・態度など）

1）専門知識と職業倫理

専門医を取得するまでの医師は専攻医と呼ばれます。専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として必要な、運動器に関する科学的知識と社会的倫理観を身につけます。常に進歩する医学の新しい知識を修得できるように、継続的な修練を行います。専門知識習得の年次毎の到達目標を表３に示します。

2）臨床家としての専門技能

専攻医は、整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として必要な、運動器診療に関する幅広い基本的な専門技能を身につけます。専門技能習得の年次毎の到達目標を表４に示します。

良い医師であるために

良い医師であるためには、臨床家としての技術・経験、科学者としての知識・考え方、チームリーダーとしての指導能力・コミュニケーション能力がバランス良く求められます。東北大学整形外科研修プログラムでは、到達目標を一つずつ達成することで、**皆さんが真のプロとなる事を全力サポートします。**



表３：専門知識習得の年次目標

	行動目標あるいは達成目標	専攻医１年目	専攻医２年目	専攻医３年目	専攻医４年目
医師の法的義務と職業倫理 一般目標：医師が守るべき法律と医師に求められる倫理規範を理解し、遵守できる	1. 医師法等で定められた医師の義務を知る	●			
	2. 医療法の概略、特に療養担当規則を理解する	●			
	3. 健康保険法・薬事法を理解し、遵守できる	●			
	4. 医療倫理、医療安全の重要性を理解し実践できる	●			
	5. ヘルシンキ宣言、日本医師会の「医の職業倫理綱領」を知る	●			
	6. 患者やその家族と良好な信頼関係を確立することができる	●			
運動器の基礎知識 一般目標：運動器疾患の理解に必要な運動器の生理学および病態生理学を修得する	1. 体幹・四肢の解剖を修得する		●		
	2. 運動器の正常組織像と各種疾患での病理組織像を述べられる		●		
	3. 骨代謝の概略を述べることができる		●		
	4. 骨折の治癒過程を述べることができる		●		
	5. 軟骨代謝の概略を述べることができる			●	
	6. 軟骨修復について述べることができる			●	
	7. 神経の変性と再生について述べることができる			●	
	8. 関節症と関節炎の病態の違いを述べることができる				●
	9. 運動器のバイオメカニクスの概略を述べることができる				●
医療記録 一般目標：医療記録は開示義務に基づき必要事項が正確に記載されねばならないこと、医療記録は個人情報であり、社会的にその管理責任を果たさねばならないことを理解・修得する	1. 開示要求に耐えうる医療記録を作成し管理できる	●			
	2. 運動器疾患について正確に病歴、症状、経過が記載できる	●			
	3. 運動器疾患の身体所見が記載できる	●			
	4. 検査結果（画像、血液検査、病理等）の記載ができる	●			
	5. インフォームドコンセントの内容を記載できる	●			
	6. 手術記録を適切に作成できる	●			
	7. 紹介状、依頼状を適切に書くことができる	●			
	8. リハビリテーション、義肢、装具の処方と記録ができる				●
	9. 障害認定と診断書の種類と内容を理解し適切に記載できる				●
研究・発表能力 一般目標：臨床的な疑問点を見出して科学的に解明し、結果を論理的にまとめる能力を修得する	1. 経験症例から研究テーマを立案し、プロトコールを作成できる				●
	2. 研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる		●		
	3. 結果を科学的・論理的にまとめ、学会と論文で報告できる			●	
	4. 研究・発表媒体には個人情報を含めないように留意できる	●			
	5. 研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる	●			
	6. 適切な統計学的手法を選択し、解析できる				●

表４：経験すべき診断・治療基本手技

	行動目標あるいは達成目標	専攻医１年目	専攻医２年目	専攻医３年目	専攻医４年目
診断基本手技 一般目標：運動器疾患の正確な診断を行うための基本的手技を修得する	1. 病歴聴取に際して患者の社会的背景や QOLに配慮できる	●			
	2. 運動器の身体所見がとれ、評価できる	●			
	3. 神経学的所見（MMT、知覚障害、反射など）がとれ、評価できる	●			
	4. 適切なX線写真の撮影部位と方向を指示し、読影できる	●			
	5. CT・MRIを造影の要否も含め適切に指示し、読影できる		●		
	6. シンチグラフィーを適切な核種を選択して指示し、判定できる			●	
	7. 筋電図，神経伝導速度の適応を理解し、実施・判定できる				●
	8. 骨量測定の概要を理解し、指示・判定できる			●	
	9. 超音波エコー検査の適応を理解し、実施・判定できる				●
	10. 侵襲的検査について患者・家族に説明し、同意を得ることができる		●		
	11. 侵襲的検査の合併症を熟知し､予防的管理を適切に実施できる		●		
	12. 血液・尿生化学検査の適応を理解し、指示・判定できる		●		
	13. 関節造影、脊髄造影の適応を理解し安全に実施できる	●			
	14. 関節液検査、脳脊髄液検査の適応を理解し、実施・判定できる		●		
	15. 組織生検の適応と手技を理解し、指導責任者のもとで実施できる		●		
	16. 微生物学の基礎を理解し、細菌検査を指示・判定できる		●		
	17. 病理標本を検鏡し、正常像と病的組織像の鑑別ができる				●
	18. 日整会各種機能評価判定基準を用いて評価できる		●		
治療基本手技 一般目標：運動器疾患の治療を安全に行うためにその基本的手技を修得する	1. 薬物療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる	●			
	2.　医薬品副作用被害救済制度を知っている	●			
	3. 麻薬管理に関する法律を理解し、適切に処方できる	●			
	4. 一般外傷を診断し、検査と治療の優先度を評価できる		●		
	5. 骨折や脱臼の徒手整復を正しく実施できる		●		
	6. ブラッシング、デブリドマンなど基本的創傷処置を正しく実施できる		●		
	7. 局所麻酔法を正しく実施できる	●			
	8. 伝達麻酔・腰椎麻酔・硬膜外麻酔を正しく実施できる		●		
	9. 全身麻酔の基礎を理解できる		●		
	10. 固定法（副子、ギプスなど）の適応を理解し，適切に実施できる		●		
	11. 牽引療法の基本と適応を理解し、適切に実施できる		●		
	12. 理学療法・作業療法の基本と適応を理解し、適切に処方できる				●
	13. 装具療法の基本と適応を理解し、装具や杖を適切に処方できる				●
	14. 清潔操作（関節穿刺・注入や直達牽引など）が実施できる	●			
	15. 神経ブロック・硬膜外ブロックを安全に実施できる			●	
	16. 術前準備（患者・患肢確認、体位、手洗い等）を適切に実施できる	●			
	17. 手術内容と合併症について説明し、同意を得ることができる		●		
	18. 術後合併症を熟知し、予防的管理を適切に実施できる		●		
	19. 局所解剖に基づいて手術の概要を述べることができる			●	
	20. 運動器の基本手術手技（鏡視下手術を含む）に習熟し、実施できる				●
	21. 骨移植の種類を理解し、その適応を判断できる			●	
	22. バイオマテリアルの種類を理解し、その使用基準を判断できる				●
	23. 手術記録を適切に作成できる	●			
	24. 術後のリハビリテーションを適切に処方できる			●	
	25. 在宅医療・社会復帰について、メディカルスタッフ等と協議できる				●

研究発表で臨床力を磨け！



国際学会も経験！

研修修了時には
専門医取得に必要な
論文も君のものに！



3）科学者としての素養

臨床的な疑問点を見出して解明する意欲を持ち、その解答を科学的に導き出し、論理的に正しくまとめる能力を獲得するため、以下の目標を定めています。

i　経験症例から研究テーマを立案し、プロトコールを作成できる。
ii　研究に参考となる文献を検索し、適切に引用することができる。
iii　結果を学会発表ならびに論文として報告できる。
iv　研究・発表に用いた個人情報を厳重に管理できる。
v　適切な統計学的手法を選択し、解析できる。

さらに、本研修プログラムでは学術活動として、下記 4 項目を定めています。

i　東北大学整形外科談論会への参加（年 2 回以上）
ii　同会での研究発表（3 年目までに 1 回以上）
iii　外部学会での発表（年 1 回以上）
iv　論文作成（研修期間中 1 編以上。可能なら日本語・英語各1編以上）



NPO法人 とうほく整形外科

東北大学整形外科の同窓会員が中心となって作られるNPO法人とうほく整形外科からは専修医助成として、東北大学関連セミナー参加費の助成、国内，海外学会等の参加の助成、臨床調査研究に対する助成を受けることができます。

Q: なぜ研究発表・論文作成をするのか？

A: 良い臨床に間違いなくつながるため

・鑑別診断を考える癖がつく
→鑑別診断を否定できるための検査を行い、その根拠を得る
→誤った診断をしなくなる

・論理的にものを考える癖がつく
→ インフォームド・コンセントに役立つ

・最新の文献を調べる
→ 診断・治療がアップデートされる

・日常診療のモチベーションとなる
→ 飽きずに仕事ができる

プロフェッショナルの仕事の流儀



4）チームリーダーとしての資質

i　プロとしての自律性を身につける

研修医を終了して専攻医となった後は、単に教わる立場ではなく一人の専門家として学び、医療を行っていく心構えが必要です。東北大学整形外科研修プログラムでは、指導医が責任をもって指導を行いますが、一方で任せるべき所は任せて専攻医の自律性を養います。診断・治療方針の決定に参加し、受け持ち医として直接患者・家族と接していく中で医師としてのプロ意識を身につけていきます。

ii　臨床の現場から学ぶ態度を修得する

本プログラムでは、知識を単に暗記するのではなく、「患者から学ぶ」を実践します。個々の症例に対して、診断・治療の計画を立て、診療していく中で指導医とともに考え、調べながら学ぶプログラムとなっています。各施設で毎週行われる症例検討会や術前・術後カンファレンスでは、個々の症例から幅広い知識をより深く学ぶことが出来ます。

iii　チームを意識して行動する

医療は医師のみでは成立しません。整形外科の専門家として、チーム医療の必要性を理解しチームのリーダーとして活動できること、他のメディカルスタッフと協調して診療できることが求められます。

東北大学整形外科には宮城股関節研究会、宮城骨折治療研究会、宮城手の外科研究会、東北大学脊椎外科懇話会、宮城骨・軟部腫瘍研究会、仙台肩関節研究会、仙台膝の会、宮城県スポーツ医学懇話会など**多くの研究会があります。専攻医はこれらの研究会に参加しながら、各専門診療グループの一員として研究・学会発表等を行います。**病院の医療チーム・東北大チームの一員として活躍することで次世代を担うリームリーダーとしての資質を育成します。

iv　後輩医師に教育・指導を行う

本プログラムでは、専攻医は指導医とともに学生や後輩医師の教育・指導も担います。後輩の指導は最大の学びの機会です。教えることによって自分自身の知識の整理、指導力を身につけるだけでなく、自身のモチベーションを高めることができます。

③　経験目標

1）経験すべき疾患・病態

東北大学整形外科専門研修プログラムでは、日本整形外科学会が定める**「整形外科専攻医が経験すべき症例」を網羅して経験することが可能**です。本プログラム参加病院には都市型の中心病院である仙台医療センター、仙台市立病院、岩手県立中央病院、山形市立病院済生館、地域中核病院としての大崎市民病院、石巻赤十字病院、気仙沼市立病院、いわき市医療センターなどがあります。さらに、各専門分野の最先端治療を行う高度専門領域研修病院として、東北労災病院、仙台西多賀病院、仙台整形外科病院、JCHO仙台病院、仙台赤十字病院、東北公済病院、宮城県立がんセンター、宮城県立こども病院などがあります。基幹施設である 東北大学病院では脊椎外科、関節外科、スポーツ整形外科、腫瘍外科、外傷整形外科について十分な症例数があります。基幹施設、連携施設での切れ目ない研修により、専門研修期間中に経験すべき疾患・病態は十分に経験することが出来ます。

2）経験すべき診察・検査等

資料１「整形外科研修カリキュラム」（下記URLからダウンロード可能）に明示した経験すべき診察・検査等の行動目標に沿って研修します。尚、年次毎の到達目標は表２に示します。診断基本手技、治療基本手技については４年間で５例以上経験します。

3）　経験すべき手術・処置等

資料１　「整形外科研修カリキュラム」に明示した経験すべき手術・処置等の行動目標に沿って研修します。本プログラムでは、研修中に必要な手術・処置の修了要件を満たすのに十分な症例を経験することができます。症例を十分に経験した上で、上述したそれぞれの連携施設において、施設での特徴を生かした症例や技能をより専門的に学ぶことができます。

地方病院の醍醐味



宮城県医学生修学資金（奨学金）貸付事業に対応！

上記事業では貸付期間の２倍の期間内に，知事が指定する自治体病院等で貸付期間と同じ期間を勤務した場合，返還が全額免除されます。東北大学専門研修プログラムには、知事が指定する自治体病院が多数参加しており、個人の状況を考慮したプログラムを組むことが可能です。

もちろん岩手県医学生修学資金（奨学金）貸付事業にも対応！

関連病院が豊富な東北大学研修プログラムの強みとして上記奨学金制度にも対応可能です。

参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html

4. 研修方法

①　臨床現場での学習

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官の疾病と外傷です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、整形外科専門研修は研修方略（資料6；下記URLよりダウンロード可能）に従って1か月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを10の研修領域（脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍）に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間で48単位を修得するプログラムで研修します。

※具体的な年度毎の達成目標については、表３および表４を参照ください。
研修コースの具体例については表２を参照ください。

東北大学整形外科専門研修プログラムの連携施設においては、専攻医を含めた医師一人あたりの手術執刀件数が年間100～200件と、短期間で非常に豊富な執刀経験を得ることが可能です。なお執刀医として経験すべき症例については、資料3「整形外科専門研修カリキュラムに示した疾患」（A：それぞれについて最低５例以上経験すべき疾患、B：それぞれについて最低１例以上経験すべき疾患）の中のものとします。

術前術後症例検討会において手術症例の報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し専門技能の習得を行います。指導医は上記について責任を持って指導します。

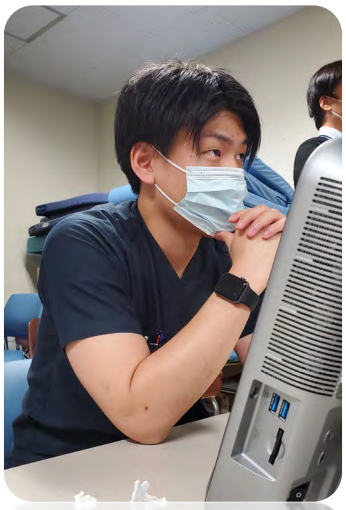


参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html

②　臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演（医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む）に参加します。また整形外科の関連学会や研究会で行われる教育研修講演や各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本プログラムでは、研修期間中に東北大学整形外科が主催する各専門領域のセミナーに参加することが必須であり、同門の専門家から最新知識の講義を受けることができます。





③　自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演、日本整形外科学会が作成するe-LearningやTeaching fileを活用して、より広く深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用DVD等を利用することにより、診断・検査・治療等について自己学習を行うこともできます。

④　専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力が重要です。どの領域から研修を開始するかに関わらず、指導医からの指導や専攻医評価表を用いたフィードバックによって基本的診療能力の早期獲得を目指します。



5. 専門研修の評価について

①　形成的評価

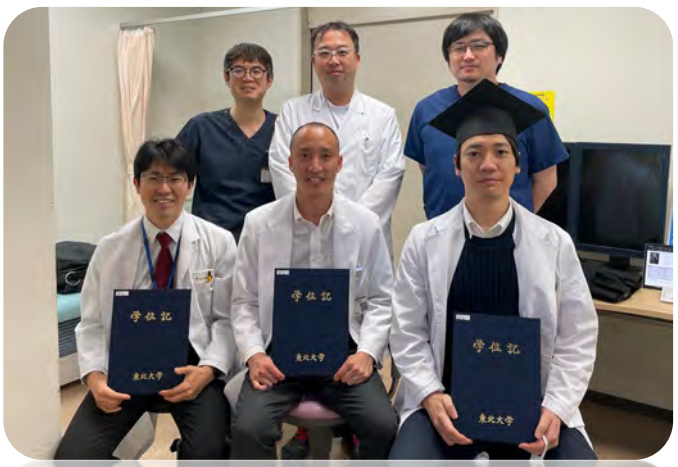
１）フィードバックの方法とシステム

　専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表（資料7；下記URLよりダウンロード可能）の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表（資料8）で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表（資料7）の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。尚、これらの評価は日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムからwebで入力します。指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的なフィードバックを行います。

２）指導医層のフィードバック法の学習(FD)

　指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案（研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成）、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。





参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html

②　総括的評価



1）評価項目・基準と時期

専門研修プログラム4年目の3月に研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを習得したかどうかを判定します。

2）評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3）修了判定のプロセス

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。
修了認定基準は、下記5項目の全てを満たしていることです。

i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（別添の専攻医獲得単位報告書（資料9）を提出）。
ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
iii. 臨床医として十分な適性が備わっていること。
iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
v. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること。

4）他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表（資料10）に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html

6. 研修プログラムの施設群について

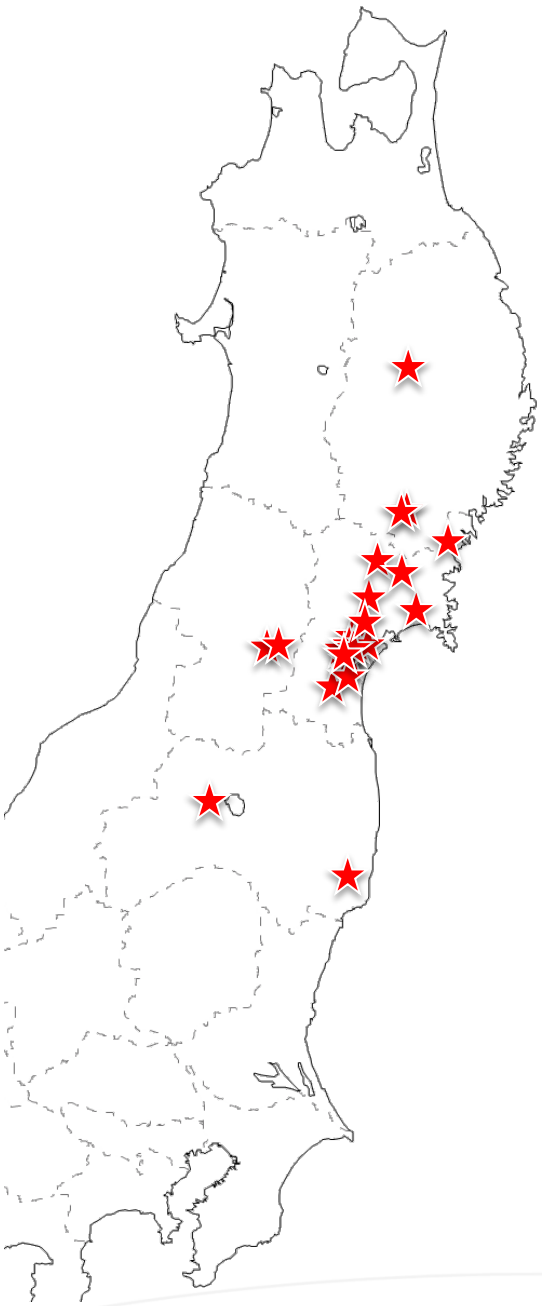
専門研修基幹施設

東北大学病院整形外科が専門研修基幹施設となります。



専門研修連携施設

東北大学整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。
専門研修連携施設の認定基準を満たしています。



岩手県	岩手県立中央病院
	岩手県立磐井病院
山形県	公立学校共済組合東北中央病院
	山形市立病院済生館
宮城県	気仙沼市立病院
	登米市立登米市民病院
	栗原市立栗原中央病院
	公立黒川病院
	大崎市民病院
	石巻赤十字病院
	特定医療法人白嶺会　仙台整形外科病院
	東北大学病院
	地域医療機能推進機構　仙台病院
	独立行政法人　労働者健康福祉機構　東北労災病院
	独立行政法人国立病院機構　仙台医療センター
	東北公済病院
	仙台赤十字病院
	宮城県立こども病院
	宮城県立がんセンター
	仙台市立病院
	独立行政法人国立病院機構　仙台西多賀病院
	仙塩利府病院
	みやぎ県南中核病院
福島県	竹田綜合病院
	いわき市医療センター

7. 専攻医受入数

より多くの症例を経験し
確実なスキルアップを！！



充実した指導のもとに
より多く執刀件数を経験

専攻医受入数は、研修プログラムにおける指導医数、症例数、手術件数によって決まります（注※）。我々の基幹施設である東北大学病院整形外科と連携施設全体での**指導医数は108名、年間新患数76000名以上、年間手術件数およそ18000件と十分な指導医数・症例数を有します。**質・量ともに十分な指導を行うために各年21名、4年分で計84名を受入数とします。 それぞれの専攻医がより多くの症例数を経験でき、手術執刀件数も非常に多いため、整形外科医として確実なスキルアップがはかれます。近年、医師数が過剰ともいわれる首都圏などの大都市では得られない充実した研修が可能です。

日本専門医機構は医師の診療科及び地域偏在を是正するため、都道府県診療科毎にプログラム募集人数に制限(シーリング)を設けています。2020年度は東京都、大阪府、京都府、福岡県などにシーリングが設定されました。

注※各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4学年分）は、当該年度の指導医数×3となっています。また、各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。さらに専攻医数の上限は、これらのプログラム参加施設の合計の症例数でも規定されます。プログラム全体での症例の合計数は、（年間新患数が500例、年間手術症例を40例）×専攻医数とされています。

8. 地域医療・地域連携への対応

整形外科専門医制度は地域医療を大切にしています。本研修プログラムでは地域医療研修病院で外来診療や二次救急などに従事し、主に一般整形外科疾患・外傷の診断・治療に関する研修を行います。さらに周囲医療機関との病診連携も経験・習得します。本研修プログラムでは、研修基幹施設である東北大学病院以外に、多数の地域医療研修病院が含まれます。地域医療で重要な役割を担ってきたこれらの病院は、若手医師の研修でも高い実績を誇っています。充実した地域医療研修ができます。



地域医療研修中も東北大学主催の研修セミナーに参加し、ハイレベルな知識を各専門分野講師から学べます。

指導医の質を保つため、地域医療研修病院の指導医には本学が主催する研修セミナーや各種学会に参加して多領域における最新知識を得るとともに、専攻医への学会発表や論文作成の指導を必須としています。また自らが指導した専攻医の評価報告を行うとともに、専攻医から研修プログラム管理委員会に提出された指導医評価表に基づいたフィードバックを受けます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性について

各専門分野のエキスパートによる専門的な指導



東北大学整形外科研修プログラムでは各指導医が脊椎・脊髄外科、関節外科、スポーツ整形外科、外傷、手外科等のサブスペシャリティを有しています。専攻医が興味を有し将来指向する各サブスペシャリティ領域については、指導医のサポートのもと、より深い研修を受けることができます。また専攻医によるサブスペシャリティ領域の症例経験や学会参加が強く推奨されています。

・様々な分野のセミナー・学会への参加
・専門医との情報共有と人的交流

専攻医の学会発表や整形外科専門誌への論文発表に関しては多くの実績があります。本学および関連施設が毎年行っている各種の整形外科セミナー（東北大学脊椎外科セミナー、東北大学小児整形外科セミナー、東北大学リウマチ外科セミナー、東北大学手の外科セミナー、仙腸関節セミナー、宮城足部疾患・外傷セミナーなど）は、サブスペシャリティ領域への橋渡しとなっています。近年は**献体遺体を用いた研修が可能な東北大学整形外科手術手技研修会も毎年開催されており、最新の手術手技を学ぶことができます**。また各サブスペシャリティの専門分野ごとに定期的に勉強会が行われており、若手医師の参加や発表を通じて、専門医との密度の高い情報共有や人的交流も可能です。

10. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計６ヵ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が６ヵ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が１年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

１１．専門研修プログラムを支える体制

①　専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である東北大学病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備しています。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることで研修プログラムの改善を行っています。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

研修への様々なバックアップ体制

・人材の供給、確保
・情報の提供、共有
・経済的な支援
・安全な環境、ゆとり
・社会的条件へ配慮



②　労働環境、勤務条件

労働環境、勤務条件は専門研修施設の病院規定によります。

１）研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。 ２）研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。３）過剰な時間外勤務を命じないようにします。４）施設の給与体系を明示し、4年間の研修で専攻医間に大きな差が出ないよう配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始時あるいは事前に説明を行います。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は東北大学病院整形外科専門研修プログラム管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

１２．専門研修実績記録システム、マニュアル等について

①　専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価



日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価、及び症例登録をweb入力で行います。日本整形外科学会非会員は、紙評価表を用います。

②　医師としての適性の評価の方法

指導医は資料３研修カリキュラムの「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表（資料10）を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。



③　プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル、②整形外科指導医マニュアル、③専攻医取得単位報告書、④専攻医評価表、⑤指導医評価表、⑥カリキュラム成績表を用います。③、④、⑤、⑥は整形外科専門医管理システムを用いてweb入力することが可能です。日本整形外科学会非会員の場合、紙評価表、報告書を用います。①、②については日本整形外科学会ホームページを参照して下さい。

参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html

１３．専門研修プログラムの評価と改善

①　専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価とプログラムの改善



日本整形外科学会が作成した指導医評価表を用いて、各ローテーション終了時（指導医交代時）毎に専攻医による指導医や研修プログラムの評価を行うことにより研修プログラムの改善を継続的に行います。その評価は研修プログラム統括責任者が報告内容を匿名化して研修プログラム管理委員会に提出し、研修プログラム管理委員会では研修プログラムの改善に生かすようにするとともに指導医の教育能力の向上を支援します。

専攻医がこの際、不利益を被ることがないことを保証します。

②　研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

研修プログラムに対する日本専門医機構など外部からの監査・調査に対して研修プログラム統括責任者、研修連携施設の指導管理責任者ならびに専門研修指導医及び専攻医は真摯に対応、プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の整形外科研修委員会に報告します。

参照資料
整形外科専門研修プログラム付属資料（日本整形外科学会HP）
http://www.joa.or.jp/jp/edu/files/index.html

１４．専攻医の採用と修了

①　採用方法



１）応募資格
　初期臨床研修修了見込みの者であること。

２）採用方法
　基幹施設である東北大学病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年７月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

　翌年度のプログラムへの応募者は、前年度の指定された日時までに、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『東北大学整形外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書、医師免許証写し、初期研修修了証明書又は修了見込証明書を提出します。

　申請書は東北大学整形外科の①website (http://www.ortho.med.tohoku.ac.jp/)よりダウンロード、②医局に電話で問い合わせ (022-717-7245)、③医局にe-mailで問い合わせ（secretary@ortho.med.tohoku.ac.jp）、のいずれの方法でも入手可能です。原則として10月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については12月の東北大学病院整形外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

②　修了要件

１）各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
２）行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
３）臨床医として十分な適性が備わっていること。
４）研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、
　　所定の手続により30単位を修得していること。
５）1回以上の学会発表を行い、また筆頭著者として1編以上の論文があること。

　以上１）～５）の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の3月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

１５．連携病院紹介

岩手県立中央病院

所在地　岩手県盛岡市上田1丁目4-1



病院の特徴：当院は、病床685床の県営医療の中核病院です。整形外科新患の約40%を占める外傷疾患はスタッフ全員で治療を行い、その上で各自のサブスペシャリティを考えるという方針で診療を行っています。サブスペシャリティは脊椎・下肢関節を主に扱っています。他科のactivityも高く、合併症で困ったらすぐに助けてもらえます。

おすすめの研修期間：どの年代でも対応可能。岩手県から奨学金を借りている方には、特にお勧めです。

岩手県立磐井病院

所在地　岩手県一関市狐禅寺字大平17



病院の特徴：当院は、岩手県南の中核病院で、外傷全般のほか、人工股・膝関節手術、2020年4月から脊椎手術（脊椎内視鏡での頸椎、腰椎手術も多数あり）も始めました。岩手県は医師不足で、研修医も立派な戦力です。主治医として多くの経験を積んでください。整形外科常勤医6名（うち専門医５名、指導医2名）でサポートします。

おすすめの研修期間：どの年代でも対応可能。岩手県から奨学金を借りている方には、特にお勧めです。

山形市立病院済生館

所在地　山形県山形市七日町1丁目3番26号



病院の特徴：当院は、山形市を中心に山形県村山地方（人口約53万人）を医療圏とした地域中核病院です。救急受け入れは医療圏トップ（約30%）を占め、整形外科は四肢外傷を中心に年間およそ350件の手術を行なっています。特に高齢者の大腿骨骨折は年間140例ほどあり、原則即日手術をモットーに迅速な対応を心がけています。様々な症例から骨折治療の基礎や周術期管理を学ぶことができます。

おすすめの研修期間：専攻医１-３年目

東北中央病院

所在地　山形県山形市和合町３丁目２-５

病院の特徴：当院には７名の整形外科医師が揃っており、特に脊椎疾患の治療に対し高い評価を得ています。脊椎（頚椎～腰部）の手術件数は年間700例を超え東北地方トップクラスの実績を有しています。丁寧な診療に基づき、手術又は保存療法の適否を慎重に判断しており、他医からの紹介も多く、全国各地から多くの患者さんに来院していただいています。職員一同、病院理念「心温かい　信頼の医療」の提供を心掛けています。

おすすめの研修期間：期間を問わず充実した研修が可能です。



気仙沼市立病院



所在地　宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢８－２

病院の特徴：2017年に新築移転された新しく開放的な病院施設で診療を行っております。

宮城県北部と岩手県南部の沿岸地域が診療圏です。復興事業に伴う労働災害、高齢者の骨折など四肢外傷が中心ですが地域完結の医療を目指して人工関節手術や関節鏡視下手術も行っております。診療に超音波検査を取り入れ、 四肢骨折の大半をエコー下ブロックを用いた自家麻酔で行っております。スポーツ障害に興味を持つ医師が複数おります。

おすすめの研修時期：専攻医1-3年目

登米市民病院

所在地　宮城県登米市迫町佐沼字下田中25

病院の特徴：宮城県北部の２次救急を担う地方中核病院です。高齢者外傷だけでなく様々な四肢外傷を多く取り扱います。整形外科医の基本として最低限必要な骨折治療や感染などの対応をしっかり教えます。１日当たりの外来患者数は同門内でトップレベルに多く、外来対応スキルも習得できます。さらに、当院にくればコメディカルのスタッフとの”良好なコミュニケーション”など、今後の人生において不可欠である非常に重要なジェネラルな部分も教えてもらえるかもしれません。

おすすめの研修時期：専攻医1-3年目

栗原市立栗原中央病院　**所在地**　宮城県栗原市築館宮野中央3-1-1



病院の特徴：当院は宮城県最北にある２次救急病院です。扱っている疾患は高齢者の大腿骨近位部骨折を中心とした外傷と肩・股・膝関節などの変性疾患です。大病院で扱うような多発外傷や最先端の医療はできませんが、回復期病棟が併設されているので、術後リハビリを同一施設内で長くできるメリットがあり、急性期の治療から慢性期に移行してからの治療・退院調整に至るまでの流れを一箇所の施設で経験できます。大病院での研修を終えてちょっとひと息つきたいときに来られてみてはいかがでしょうか。短期間だけでも大歓迎いたします。

おすすめの研修期間：専攻医1-3年目あたり。整形外科領域での地域医療をより深く経験してみたい方におススメです。

大崎市民病院　**所在地**　宮城県大崎市古川穂波3丁目8-1

病院の特徴：大崎市民病院は宮城県北の基幹病院です。救急センターを併設していますので、２次、３次救急患者が運ばれてきます。整形外科では脊椎や関節の変性疾患手術も行っておりますが、外傷手術が2/3を占めております。急性期のICU管理は救急専門医の指導のもとに行います。救急外傷に興味のある方を待ってます。



おすすめの研修時期：専攻医1-3年目。どの年代の方が来ても仕事はあります。

石巻赤十字病院　**所在地**　宮城県石巻市蛇田字西道下71番地

病院の特徴：石巻地区20万人の医療圏を擁し、乳児から高齢者まで、外傷から変性疾患まで幅広く診療をおこなっています。実際に「自分の手を動かして」治療をしたい方にはうってつけの施設です。主治医として外来～手術～術後の経過観察と一貫して治療に携わることができます。日本整形外科学会の認定指導医が3名います。



おすすめの研修時期：専攻医1～３年目。どのレベルでも対応可能です。

仙台整形外科病院

所在地　宮城県仙台市若林区伊在三丁目5-3



病院の特徴：仙台整形外科病院では脊椎と膝関節の手術療法に積極的に取り組んでおり、それぞれ年間約440件、300件と県内でもトップクラスです。脊椎手術では内視鏡手術、椎体骨折に対する椎体形術を積極的に行っています。膝関節手術では靭帯損傷再建術、人工関節置換術などを中心に行っております。
おすすめの研修時期:整形外科の中でも、脊椎、膝関節のサブスペシャリティを持ちたい方に最適の研修施設です。専攻医2-3年目がおすすめです。

JCHO仙台病院

所在地　宮城県仙台市泉区紫山2−1−1



•病院の特徴：2021年に新病院に移転し、快適な職場環境の元で研修が可能です。脊椎外科は腰痛診療に力を入れており、年間200例の手術を行なう一方で、仙腸関節の機能解明・運動器の原理の研究、運動器障害の予防に努めています。関節外科は関節鏡・人工関節を中心に年間200例近く手術を行なっています。手・足の外科の症例も多く年間100例近い手根管開放術や重篤な成人足部疾患の変形矯正を行っています。一般的な外傷・骨折にも対応しており、幅広く経験することが可能です。
•おすすめの研修時期：いずれの時期でも実戦的で有意義な研修が可能です。4名の指導医が研修をサポートいたします。

東北労災病院

所在地　宮城県仙台市青葉区台原４−３−２１



病院の特徴：東北労災病院整形外科では13名の整形外科医が勤務しており、９名が整形外科専門医・指導医です。診療班は脊椎外科と３つの関節外科（上肢・リウマチ、下肢、外傷）の４つの班で、各領域のスペシャリストがそろっています。年間手術件数は約1800件、入院病床は約100床、月平均外来患者数は約2700名、月平均新患数は約220名です。豊富な症例・多彩な疾患を経験できます。また、学会発表や論文作成も指導致します。

おすすめの研修時期：専攻医1～4年目までどの時期にいらしても、個々の習得状況に応じた有意義な研修が期待できます。

仙台医療センター

所在地　宮城県仙台市宮城野区宮城野2丁目11-12

病院の特徴：仙台医療センターは、東北大学病院・仙台市立病院とともに救命救急センターを有する病院です。宮城県ドクターヘリの基地があります。整形外科外傷センターとして、開放・粉砕骨折など四肢重症外傷、骨盤外傷、脊椎外傷の治療に積極的に取り組んでいます。ほか当科の特色として、外傷だけでなく変性疾患・感染症など幅広い疾患に対応可能な脊椎外科拠点病院の一つであること、総合病院として併存症のある患者様のご紹介を受けて診療する機会が多いことが挙げられます。四肢・関節外科では手術適応のある四肢単発骨折も可能な範囲で受け入れています。脊椎外科では2012年から最小侵襲脊椎固定術、2014年から脊椎内視鏡手術を導入し低侵襲化を図っています。

おすすめの研修時期：研修時期は問いません

東北公済病院

所在地　仙台市青葉区国分町２丁目３－１１



病院の特徴：骨・軟部腫瘍、成人足部疾患、プロスポーツレベルのスポーツ障害・外傷の手術的治療を中心に診療を行っています。さらに、東北大学の非常勤医により肩疾患、脊椎疾患の手術も行っています。軟部腫瘍、足関節の鏡視下手術、外反母趾などの足部変形の手術数は全国で屈指の数を誇っています。当院の救急車受け入れ件数は年間2000件以上で、急性期疾患に対応しています。

おすすめの研修時期：研修時期は問いません。経験年数、希望に応じて研修できます。当院での研修を歓迎致します。

仙台赤十字病院

所在地　宮城県台市太白区八木山本町2-43-3

病院の特徴：下肢関節の変性疾患、スポーツ障害を中心に診療を行っています。2019年より人工関節センターを立ち上げ、人工関節置換術は年間約450例（股・350例、膝・80例、足・20例）を数えます。膝関節・足関節のスポーツ障害に対する関節鏡視下手術は年間約300例です。また、膝関節や足関節、足趾の矯正骨切り術も豊富です。たくさんの症例から下肢関節疾患に対する治療経験を積むことができます。

おすすめの研修時期：専攻医２年目以降です。



仙台市立病院

所在地　宮城県仙台市太白区あすと長町1-1-1

病院の特徴：仙台市立病院は、仙台圏の3次救急を担っており、救急車で搬送される多発外傷や合併症を抱えた外傷が来院します。整形外科では、他の医療機関から紹介される一般外傷（手術適応症例中心に）や小児外傷にも数多く対応しています。感染症、肩関節疾患、股関節疾患、手外傷、軟部組織再建など中心に多彩な整形外科疾患を経験することができます。さらに、救急の初期対応から合併症のマネージメントなど全身状態の管理や他科との連携も研修できます。

おすすめの研修時期：整形外科入門から仕上げまでどの時期でも大丈夫です。5人の指導医が研修をサポートします。

仙台西多賀病院

所在地　宮城県仙台市太白区鈎取本町2-11-11

病院の特徴：当院整形外科の手術件数は約700件、脊椎疾患が600件を超えます。関節疾患は関節リウマチ、変形性関節症の手術が主です。脊椎では頚椎・腰椎の変性疾患が多く顕微鏡や内視鏡を用いた低侵襲手術を取り入れています。上位頚椎疾患や脊柱側弯症など専門性の高い疾患、高度不安定性例や再手術例など難易度の高い手術も行っています。ナビゲーションなどの高度医療機器も備えています。多くの症例を診断から手術および術後リハビリまで治療の流れを一貫して経験することができます。

おすすめの研修時期：外傷の経験を積んだ専攻医3-4年目あたり。変性疾患に対する診断、手術計画から執刀まで行うことで専門医取得に向けた知識と技術が習得可能。

宮城県立こども病院

所在地　宮城県仙台市青葉区落合4丁目3-17

病院の特徴：宮城県立こども病院は100%小児だけを扱います。股関節脱臼・内反足・斜頸が基本になりますが、四肢の変形矯正・骨延長・小児リハ・ボトックスも行っています。当院でしか診られない希少疾患などもぜひ学びに来てください。こどもが好きな先生にはとくにお奨めです。
おすすめの研修時期:専門医に必要な小児整形外科の 研修単位は２か月間ですが、当院ではその間も雇用が可能です。



宮城県立がんセンター

所在地　宮城県名取市愛島塩手字野田山47-1



病院の特徴　当院はがんの治療に特化した専門病院であり、がん専門病院としての総合医療を経験できます。骨・軟部腫瘍の診断においては放射線診断、病理診断が重要であり、積極的に生検（エコー下あるいはCT下経皮針生検）を行っています。2019年度よりゲノム医療センターを開設し、ゲノム医療を展開しております。治療については手術（四肢、体幹部）が基本ですが、化学療法、放射線治療も積極的に行っています。悪性骨・軟部腫瘍の多くを占める肉腫は「希少がん」で、整形外科医が一生の間に経験することが非常に少ないだけに、肉腫を見逃さずに的確に診療できる機会を持つことは整形外科医にとって重要で貴重な体験です。同時に整形外科医が一般病院において最も関わる腫瘍である骨転移がんのマネージメントも学ぶことができます。また、当院は研究所を併設しており、臨床のみならず基礎医学についても研究が可能なことも大きな特色です。

おすすめの研修時期：専攻医2-4年目。

公立黒川病院

所在地　宮城県黒川郡大和町吉岡字西桧木60番地



病院の特徴：病床数170床の病院で一般病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟それぞれが3分の１ずつとなっています。黒川地域の外傷患者の手術と仙台市及び大崎地区の外傷患者の術後リハビリを行っています。

おすすめの研修期間：専攻医１-３年目

仙塩利府病院

所在地　宮城県利府町青葉台2丁目2－108



病院の特徴：年間手術数は1000件以上で、整形外科のほとんどの領域を網羅しています。骨折外傷、股関節、手肘、末梢神経、足、腫瘍に加え、東北大医局の協力のもと、脊椎、膝、肩の手術が毎週のようにあり、手術のバリエーションは関連病院随一と自負しております。各分野の指導医のもとに執刀のチャンスがあります。また、日本手外科学会の基幹研修施設になっており、微小血管吻合の練習ができる設備があります。

おすすめの研修期間：どの年代でも対応可能です。

みやぎ県南中核病院

所在地　宮城県柴田郡大河原町字西38-1



病院の特徴：当院は宮城県南において広い医療圏を担う中心的な病院です。主に四肢外傷を取り扱うほか、肩関節、脊椎、足部の変性疾患の手術も行っています。近郊に手術を行う病院も少なく、多岐にわたる疾患を経験できます。仙台からも比較的近く、仙台市内の病院と連携がとりやすいことも利点です。

おすすめの研修期間：いずれの時期においても有意義な研修が可能です。

竹田綜合病院

所在地　福島県会津若松市山鹿町3-27

病院の特徴：年間1200件の手術件数のうち、レジデント向け症例が400件前後あります。習熟したレジデントの先生には独りで執刀も任せています。救急搬送数は年間6,300件、また、ウォークインを含めた整形外科の救急患者数が年間3,300例と、多くの経験を積むことができるのが当院の特徴です。常勤の専門医は5名おり、一般外傷・脊椎・股関節・膝関節・手外科・肘関節・肩関節と幅広く対応しています。昨年、ROSA(Robotic Surgical Assistant)を東北地方で初めて導入し、人工膝関節置換術、人工股関節置換術の際に0.5mm、0.5°以下での治療に挑戦しています。超高齢者の治療から、先端医療まで当院では経験できます。給与も比較的よい当院での研修、いかがでしょうか？



おすすめの研修時期:研修の進捗状況に応じて、個人の興味のある分野を中心に研修を行うことも可能です。また研修医が多くとても活気がある病院です。

いわき市医療センター

所在地　福島県いわき市内郷御厩町久世原16

病院の特徴：当科の特徴は、症例数の豊富さ（2022年度2108例でした）と手術内容の豊富さです。関節疾患は、膝、股、肩、肘などの人工関節手術や各種の鏡視下手術が行われ、instrumentationをはじめとした脊椎手術も行われています。また福島県浜通り唯一の三次救急センターが設けられているため重傷外傷の症例も多数あり、救急救命科と連携し治療を行っています。また通常の骨折などの外傷は手術の2／3を占め豊富かつ多種の症例を経験できます。また人工関節でのNavigationや脊椎外科でのO-Armなどの最新の機器が既に設置され日常診療に用いられています。意欲のある若い医師には有意義な研修を体験できると考えています。

おすすめの研修期間：いずれの時期においても有意義な研修が可能です。



東北大学整形外科専門研修プログラム

2026版

初版　2018年6月19日
第9版　2026年3月26日

東北大学整形外科学教室